

「将来働く職場内の外国の方に対するコミュニケーション能力の育成」

東京都立志村学園

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	令和元年 10 月 15 日 (水)
利用学年・参加人数	高等部第 1 学年・80 人
利用コース	半日 (セッション 4-5) ランチプログラム利用 (無)
利用級	初級
教育課程上の位置付け	学校行事
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アトラクション・エリア <input checked="" type="checkbox"/> アクティブイマージョン・エリア



○本校における英語教育・国際理解教育について

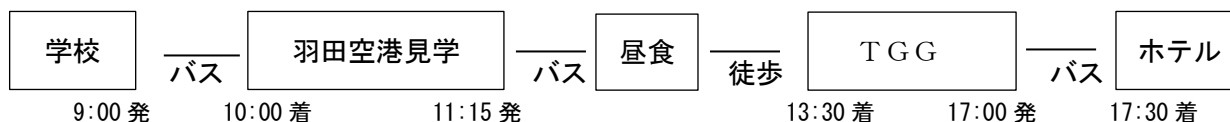
(1) 本校における英語教育の取り組み

国際化が進む社会において、予測される基礎的な英語でのコミュニケーション場面を取り入れた学習活動を取り入れている。

(2) 授業内容

日常会話・身の回りの英単語等に加え、「英語絵本のワークショップ」や外部講師を招き、「ボランティアガイド」について学ぶ機会を設けている。

○利用日当日の行程



○事前学習について

(1) 教員による事前調査

英語に苦手意識をもつ生徒たちが、外国の方と少しでも身近にコミュニケーションを取れるようなプログラム内容を検討し、内覧会と体験会に参加した。

(2) 英語や事前学習について

「パスポート」や「TGG準備ブック」を活用し、当日の体験で生徒たちが見通しをもって取り組めるような事前学習を行った。本校のALTがエイジェント役になり、コミュニケーション練習を行った。



アトラクション・エリア

○生徒の変容について

英語の授業において、英語で話し掛けるといつも嫌がっていた生徒が多かったが、TGGの体験を通じて自信を付けた生徒が増え、英語で話し掛けても何とか返そうとする意欲が出てきた。

<感想>

- ・エイジェントの方々が優しく安心して取り組むことができた。
- ・英語で話す機会がないので、よい体験になった。これからはもっと英語を話してみようと思った。

○本校のTGG利用の特徴について

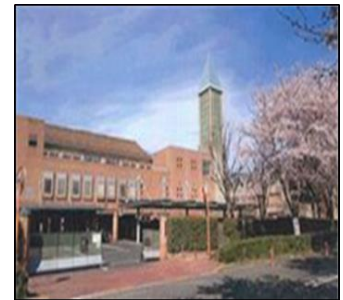
東京オリンピック・パラリンピックに向けて外国語教育の新たな方策を考えている中、2018年9月に東京・青海に『TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)』ができることを知り、1年後の移動教室に取り入れようと考えた。本校の生徒は、卒業後、生徒全員の企業就労を目指しており、就労先で外国人の方と共に働くことを想定しており、外国人と継続的に触れ合えることを目的にTGGの利用を計画した。

「東京都立府中けやきの森学園における実践例」

東京都立府中けやきの森学園

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	令和元年9月18日(水)
利用学年・参加人数	第1学年・12人
利用コース	半日(セッション2-3)
利用級	初級
教育課程上の位置付け	学校行事
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アトラクション・エリア

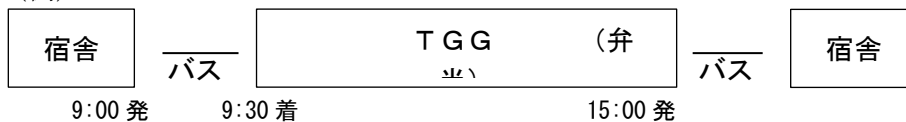


○本校における英語教育・国際理解教育について

- ・本校1学年の「コミュニケーション英語I」では準ずる教育(Aグループ2名)が週3回、月に1~2回日本人教師とALT教員とのTTを実施している。TGGでは、普段の授業で学んだ英語を実際にいかす場としての貴重な機会となると考える。
- ・本校知的代替(B1グループ5名)が週2回「外国語」の授業を実施している。また、夏期に近隣の留学生との交流学习を実施している。(日本の伝統文化の紹介・外国の文化の紹介等)

○利用日当日の行程

(例)



○事前学習や事後学習について

- ・9月：TGG利用に向けて総合的な学習の時間で1時間程度の事前指導を実施。
- ・9月：「コミュニケーション英語I」「外国語」の授業で、TGG利用に向け日常生活場面で想定される表現方法についての学習を行った。
- ・10月：TGGで学習した表現方法(日常生活場面を想定した)の振り返りを行うことで、簡単な英語での表現方法を定着できるようにした。

○児童・生徒の変容について

- ・生徒たちは授業で学習した表現が実際に伝わる体験をしたことで、積極的に英語を用いて話そうとする場面が多くみられるようになった。
- ・日常生活場面で簡単な英語表現を用いて会話をしようとする姿が見られるようになった。

○本校のTGG利用の特徴について

本校生徒は四肢及び体幹に麻痺があり、車いすを日常的に利用している生徒がほとんどである。生活にも制限が多く、人間関係、生活体験、学習体験等色々な場面で経験が不足しがちである。公共の交通機関(バスや電車や飛行機等)を使った旅行も困難な本校の生徒にとって、TGG利用により外国にいるような疑似体験をすることができた。

TGGの活用により、学習した言語を活用するイメージを膨らませ、外国語を学んでいく意欲を大きくもたせる効果を得た。



当日の様子

レッツ・エンジョイ・コミュニケーション！－特別支援学級における TGG の活用－

国分寺市立第七小学校 特別支援学級（けやき学級）

【TGG利用に関する基本情報】

利用日	平成 31 年 2 月 21 日（木）
利用学年・参加人数	第 5 学年（市内 10 校の 5 年生児童 557 名を 2 班に分け、2 日間 TGG 施設を利用した。そのうち本校けやき学級の児童は 5 名）
利用コース	一日（セッション 1－2） ランチプログラムの利用はなし。
利用級	初級
教育課程上の位置付け	外国語活動 学校行事
利用プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> アクションエリア <input checked="" type="checkbox"/> アクティブイマージョン・エリア

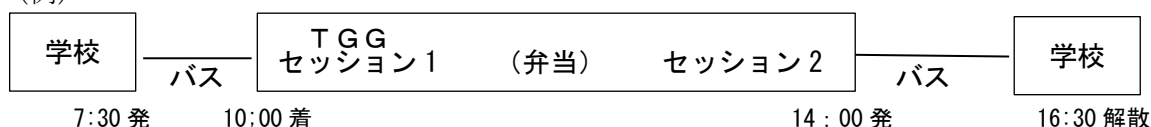


○本校における英語教育・国際理解教育について

本校の特別支援学級（知的固定）には、現在 28 名の児童が在籍している。外国語活動は、生活单元の中で、年間 10 時間設定しており、ALT と一緒にコミュニケーションを楽しむことをねらいとして学習している。特別支援学級の児童は、個々のもつ特性から新しいことに苦手意識の強さが見られたり、自分の思いを伝えるのに時間を要したりする児童も多い。そういう実態を踏まえた上で、海外の街を再現したようなリアルな空間の中で伝え合いの成功体験を味わわせ、世界に目を開くきっかけ作りをしたいと考えている。

○利用日当日の行程

（例）



○事前学習や事後学習について

特別支援学級の 5 年生は、1 年生からの ALT との外国語活動の経験があるため、TGG に行くことをとても楽しみにしている児童が多かった。事前に曖昧なアナウンスをするとかえって不安になる児童もいることから、アクティビティーについての事前学習は簡単にした。通常の挨拶の言葉を「Prep Book」を使用して丁寧に学習し、教員は次の点について、TGG のスタッフと事前に打ち合わせて確認した。

- ① チームビルディングの段階で、特別支援学級のグループをつくり、担任や介助員も支援に入る。
- ② ダンスやトラベルゾーンのような、子供たちの実態に合う内容を選択する。
- ③ エイジェントは子供たちの反応をじっくりと待ち、すべて肯定的な声掛けに徹してもらう。

○児童・生徒の変容について

児童からは、「とても楽しかった。」と肯定的な感想が多く、伝え合うことができた成功体験が次への学習意欲へと広がっている。

○本校の TGG 利用の特徴について

本市は全校全額公費負担で TGG を利用した。子供たちの外国語学習への意欲は向上している。そのことを学校だよりや、ブログ等で発信し、地域や保護者の関心も高まっている。



「トラベルゾーンでの活動風景」